

2023年、売店ではウサギ会議が開催されている!?

2023年の干支は「卯(ウサギ)」。どうやらおみやげ売店では、「2023年ウサギ会議」が開催されている様子…。宝物を囲み、何を話しているのでしょうか??



1
ウサギのぬいぐるみ
各種税込
1,320円~

2
ヘアピン
税込
390円

3
ヘアゴム
税込
450円

4
ハートキーホルダー
(ピンク・ブルー)
各種税込
450円

5
ハートベル
税込
660円

大人気! アニマルキャップ

みんなでかぶり、記念写真を撮ってみるのはいかがでしょうか?

左から「ハスキー犬」
「パンダ」「柴犬」「ウサギ」
各種税込み1,100円



現在ウサギ満載の園内ですが、おみやげ売店でもたくさんのウサギグッズをご用意しています。お気に入りのウサギグッズをぜひ見つけてくださいね!

※入荷に遅れが生じたり、価格が変更となる場合があります。ご了承ください。

ZOOと平川



特集1

干支特集「ぴょーんっと注目!卯・ウサギ」

特集2

オーストラリアからコアラがやって来た

特集3

カリフォルニアアシカの子の成長記録

未来につなぐ ZOOとつなぐ50年

鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1

TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328

■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)

■休園日:12月29日~1月1日

URL <https://hirakawazoo.jp/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>

Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>

YouTube <https://www.youtube.com/c/hirakawazoo>

動物取扱業の種別:展示・販売、保管、貸出 登録番号:生衛動取 第614号、第615号、第616号、第617号
登録年月日:令和3年5月11日 有効期限の末日:令和8年5月11日 動物取扱責任者氏名:桜井普子

携帯サイトへ
アクセス!



ZOOと平川 vol.36 2023年3月発行

編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号

TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690

URL <https://k-kouenkousya.jp>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

ぴょんんと注目! 卵・ウサギ

2023年の干支は卯(ウサギ)です。かわい
いだけじゃないウサギ
の魅力にぴょんんと
注目しちゃいます!

~ウサギってどんな動物?~

平川動物公園のふれあいランドでは「カイウサギ」を飼育しています。

- 《学名》*Oryctolagus cuniculus*
- 《英名》Domestic Rabbit
- 《分類》ウサギ目ウサギ科
- 《生息地》世界の各地(家畜)
- 《体長/体重》体長35~45cm、体重1.4~30kg
- 《エサ》乾草(牧草)、ウサギ用ペレット、野菜、野草
- 《寿命》7~8年
- 《園内で見られる場所》ふれあいランド(タッチングコーナー)



~ウサギをじっくり観察しよう~

耳

立っている耳や、垂れている耳があるよ! 音を聞くためだけでなく、体温調節にも関係しています。ウサギを抱っこするときに耳を引っ張らないでね!



目

まんまるかわいい目。黒い目や青い目、赤い目などさまざま!

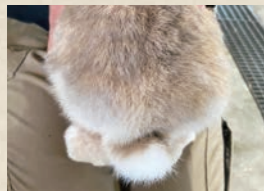
口

ウサギの歯は一生伸び続けます。上下の歯がこすれ合うことで、自然に歯がすり減るようになっています。



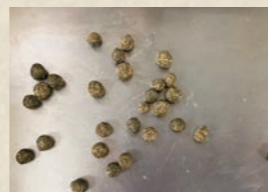
尾

おしりにちょこんと付いている尾(しっぽ)。野生下では、仲間とのコミュニケーションのために必要不可欠な存在です。



うんち

ウサギは2種類のうんちをします。やわらかいうんち(盲腸便)と硬いコロコロのうんちです。ウサギは盲腸の腸内細菌が草の繊維を分解して作った「盲腸便」を食べます(食糞)。硬い草を食べ、消化、吸収するためにはこの盲腸便を食べ、盲腸が作り出した豊富な栄養を吸収する必要があります。



硬いコロコロのうんち

~平川動物公園のウサギたちの1日~

8:15 「おはよう~!」と担当飼育員がタッチングコーナーへ。ウサギたちはまだゴロゴロのびのび、自由に休んでいます。



8:30 体重測定
月に一度、朝に体重測定をしています。測るタイミングを統一することで、同じコンディションのときの体重がわかります。この体重計はAmazon欲しいものリストでいただいたものです!



11:00 エサの時間(乾草、ウサギ用ペレット、キャベツ、ニンジン、リンゴ)
エサの時間になるとソワソワ...!一緒にいるモルモットは「プイプイプイ」と元気な声でエサを催促しますが、ウサギたちは静かです。しかし、視線を向けたリケージの中を動き回ったり、個体ごとにアピールが違うところが面白いです。



14:00 健康チェック
家畜であるウサギは、私たちが健康管理のために手入れをする必要があります。動物園では、爪切りやブラッシングなどを行っています。



15:00 おやつ時間(小松菜、青草、野草)
ウサギたちが元気で過ごしているかどうか観察しながら、おやつを与えてコミュニケーションをとります。



9:00 掃除
毎日ケージの掃除をします。草食動物のウサギは食べる量が多く、排泄物がたくさん! しっかり掃除をして、気持ち良く過ごしてもらいます。

12:00 まったり休憩タイム~
ウサギの主食は乾草のため、いつでも食べられるようにたくさん与えています。食べたり休んだり・自由に過ごします。足を伸ばしてくつろいでいる姿が見られるかも...!



17:00 「また明日~!」担当飼育員が帰る時間です。電気を消して、夜間冷える場合は暖房を入れ、ウサギたちが夜も快適に過ごせるようにします。ノウサギなどは夜行性ですが、カイウサギは人間の生活に順応しているため、夜は寝ていることも多いです。



~タッチングコーナーで会えるウサギたち~

平川動物公園には21頭の
カイウサギがいるよ! 会いに来てね!



アイス(メス)



シェイク(メス)



ドロップ(オス)

～比べてみよう！人間VS ウサギ～

① 聴力(聴覚)

ウサギは最大42,000Hz(ヘルツ)という高音域の周波数を聞き取ることができますと言われていて、人間が聞き取れる音域は17,000Hz程度なので、およそ3倍！



② 脚力

ウサギは後ろ足を揃えてピョンピョン飛ぶように歩きます。これは外敵から身を守り早く走るためです。発達した後ろ足の筋肉で、地面を蹴る力はおおよそ5～6kg！自分の体の3倍以上の力で蹴ることができます！

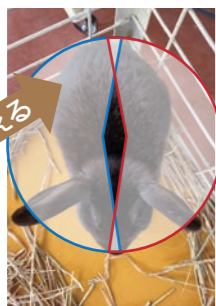


▲前足：前足の指は5本 ▲後ろ足：後ろ足の指は4本

足の裏にも毛が生えているため、飛ぶように走っても足音は静か！

③ 視力・視野(視覚)

ウサギの視力はあまりよくありません。(0.05～0.1程度)しかし、視野はなんと360度！(人間は180～200度)顔を正面から見ると目が顔の真横についているのが特徴です。そのため視野が広く、外敵に素早く気づき、身を守ることができます。



後ろも見える

頭の上も見える

ヒゲが口元のセンサーになっているよ
口元だけ見えない

④ 嗅覚

小さくてかわいいウサギの鼻。人間と比べると嗅ぎ分けの力は10倍以上ともいわれています。



～かわいいだけじゃない!?ウサギの魅力～

その1

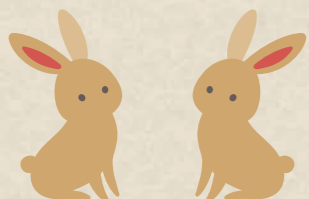
なんといっても毛並みが美しい！ウサギの毛はすごくフワフワしていて、気持ち良いです！ふれあう機会があれば、ぜひ優しくさわってみてね！



その2

個性あふれる！顔つき、表情

きつとどの動物でもあるであろう、顔つきの違い。動物ってどの個体も同じ顔と思いませんか？ウサギもそれぞれじっくり観察すると、顔つき、表情が違って面白いです。



その3

とにかくかわいい！子ウサギ！

生まれたてのウサギは毛が生えておらず、目も開いていません。生後1カ月ほどで毛が生えそろうウサギらしい姿になるため、生後1～4カ月ほどのかわいさは格別です！生後6カ月も過ぎると、大人と変わらないほどの大きさにまで成長します。



～こんなウサギもいるよ！～

日本の山野には、北海道から本州、四国、九州に、野生のウサギ(ユキウサギ、エゾナキウサギ、ノウサギ、アマミノクロウサギ)が生息しています。カイウサギの他に、平川動物公園で飼育している2種のウサギを紹介しましょう！

○国の特別天然記念物！アマミノクロウサギ

《学名》*Pentalagus furnessi*
《英名》Amami Rabbit
《分類》ウサギ目ウサギ科
《生息地》奄美大島、徳之島
《体長/体重》40～50cm、体重1.3～2.7kg
《食性》草、木の枝葉や樹皮、果実等の植物食
《寿命》15年(飼育下)



▲徳之島の天城町で保護されたマツバ(メス)

世界でも奄美大島と徳之島にのみ生息しています。他のウサギと比べ耳が小さく、足が短い等、原始的な姿をしていて300～500万年前から生息していたといわれています。その希少性から1963年に特別天然記念物に指定されています。生息地の森林の減少、交通事故、ノネコによる捕食等が原因で生息数が少なくなり、環境省レッドリスト絶滅危惧IB類の絶滅危惧種に指定されています。

平川動物公園では、交通事故に遭ったり、ノネコに咬まれたりして怪我をし、保護されたアマミノクロウサギ4頭を飼育しています(非公開)。怪我を治療して野生復帰させることを目指し飼育をしていますが、後遺症が残るときは、終生飼育をします。後遺症で咬み合わせが悪く、歯が伸び続ける個体は、定期健康診断で獣医が歯を削る等の処置を行い、健康を維持しています。アマミノクロウサギの飼育で得られた飼育技術や知見が、アマミノクロウサギの種の保存につながるよう努めています。

○リス森の隠れキャラ!? キュウシュウノウサギ

《学名》*Lepus brachyurus brachyurus*
《英名》Japanese Hare
《分類》ウサギ目ウサギ科
《生息地》九州地方
《体長/体重》体長40～45cm、体重2.5kg
《エサ》草や木の葉、芽など
《寿命》3～5年
《園内で見られる場所》リスの森



▲発見難易度は★★★★★!

警戒心が強く、周りの音に敏感です。

小さな物音にもすぐに気付いて逃げ隠れることができるのは、長い耳のお陰。現在リスの森には、2匹のキュウシュウノウサギがいます。夜行性で、明るい時間帯は隠れていることが多い為、皆さんじっくり探してみてください!!

特集2 オーストラリアからコアラがやって来た①

新しい仲間 アーチャーがやってきた

2022年の9月に、オーストラリアからオスのコアラを迎え入れることができました。今後の繁殖計画への貢献が期待されています。職員がオーストラリアまで迎えに行き、現地の飼育管理について研修を受けてきましたので、その様子も紹介します。



真っ黒な大きな鼻が特徴のアーチャー

新型コロナウイルスの蔓延によりコアラの移動にも影響が…

オーストラリアにあるテーマパーク「ドリームワールド」とは、ホワイトタイガーとコアラの交換契約を結んでいました。3頭のコアラが来園することになり、先行して2頭が2018年にやってきました。残りの1頭を2020年に迎える準備を進めていたが、猛威を振った新型コロナウイルスの影響により、2年延期となりましたが無事に導入することができました。



オーストラリアを代表するテーマパークです



当園から搬出したホワイトタイガーも元気に喜らしていました！

動物の海外移動は簡単にはできない

電子メールや航空機の発達で、連絡や輸送は昔に比べて容易になりました。それでもかなりの時間を割いて準備を進めました。

国をまたいで動物移動には様々なルールがあります。代表的なものは検疫です。オーストラリアを出るまでの最低45日間は他のコアラと分け、病気にかからないようにしなければなりません。専任のスタッフだけで管理し、外部とは接触しないようにします。これは日本に到着しても同様で、2週間の検疫を実施し、異常がないかを慎重に見極める必要があります。これ以外にも、当園の飼育施設の詳細やユーカリの供給体制などを英訳して、資料として提出しました。



ドリームワールド内の検疫室にいるアーチャー

コアラを迎えに行ってきた

海外渡航が禁止ではないものの、まだコロナ禍で様々な規制がありました。感染者数が増えると、さらに制限がかかる可能性もあり、直前まで「本当に迎えに行けるのか？」と不安でしかなく、日程も全く決めることができず実感がわかない日が続きました。8月下旬には大まかな出張期間が、出発の10日前に詳細な行程が決定しました。新たなコアラを迎え入れるにあたり、年齢や体重、ユーカリの好みなどの情報も入手し、受け入れる準備を整えました。直前で、現地の輸送箱が日本国内で使用できないかもしれないとの情報があり、当園の輸送容器を羽田空港へ急遽発送し、万が一の時も対応できるようにしました。

出発は9月15日、帰国は21日の7日間です。この間、ドリームワールドでの飼育研修やユーカリ畑の視察など現地の飼育技術を学ぶ機会もあり、クィーンズ大学の先生と人工授精についても協議できることになりました。園長と二人で、期待と不安を抱えながら出発しました。

ドリームワールドにて本場のコアラ飼育を学ぶ！

滞在中の3日間はドリームワールドをベースに、様々なことを経験させていただきました。何度も職員交流をしており、強い信頼関係で結ばれています。過去の報告書で知ってはいたものの、実際行って自分の目で見て経験することはとても重要なことです。飼育部門の統括であるミッシェル氏に、根掘り葉掘り質問をして情報を得ました。例えば最近のコアラ治療に関する新しい動きや、ユーカリ以外に与えている植物など、メモを手放せない時間を過ごしました。

そして、連れ帰るコアラと対面し、飼育担当者からの引継ぎを行いました。名前はアーチャー、3才のオスです。スタッフからの信頼は絶大で「やさしい巨人」というニックネームまで付いています。その名の通り、温厚で大きなオスで、はじめて抱いた時は胸に熱いものを感じました。日本のコアラ界を牽引してくれる存在になると確信しました。



はじめまして！アーチャー抱いた時は感無量でした！



コアラを抱っこして写真が撮れるブースがあり、体験料は現地の野生生物の保護に役立てられます



ユーカリ畑も視察し、アドバイスももらいました。日本と違うのは、畑のユーカリがなくても目につく木がほとんどユーカリなので、切って与えることができること…なんともうらやましいです

野生のコアラの生息地へ

研修期間中に野生のコアラの調査へ同行させてもらいました。ミッシェル氏は定期的に発信機のついたコアラの追跡や個体数調査などを行っています。聞けば、他の動物園と共同で実施しており、それぞれ担当エリアがあるとのことでした。住宅地に隣接する森をしばらく歩くと、ミッシェル氏が立ち止まり私に合図します。その先に視線を向けると、いました！野生のコアラです。言葉には表せない感動が！と言いたいところですが、なにぶんほぼ毎日見ているコアラ。それと全く同じ姿で眠っています。この光景を見てすごほつとしました。なぜなら「野生と飼育での姿が同じで、動物園での飼育は間違っていない」と思えたからです。約2時間近く散策し、7頭のコアラをじっくり観察できました。それ以外にもオオカンガルーやガマグチヨタカ、ツカツクリなどの固有種も見ることができ、彼らの生息地の豊かさを実感することができたところで、長くなってしまったので今回はここまで。次号で鹿児島までの移動の様子や、平川動物公園でのアーチャーの暮らしをご紹介します。どうぞお楽しみに！



野生のコアラの生息地へ



コアラ発見！どこにいるかわかるかな？



ガマグチヨタカは抱卵中でした



休息している姿は動物園と同じ ちょっと野性味があるかな！？



オオカンガルーも普通にいます

特集3 アツカの赤ちゃん「ミコ」の成長日記

無事出産！

2022年5月16日にカリフォルニアアシカの『ミュウ』が1頭の赤ちゃんを出産しました。名前は『ミコ』。ミュウは6年前にも出産しており今回が2回目の出産でした。ミコの面倒をしっかり見ており、育児をする気満々といった様子。



しかし私はその様子を不安な気持ちを抱えながら見ていました…。

6年前に生まれた仔は10日間母親のミュウと暮らしていましたが、体調を崩し人工哺育に切り替えたという経験があったからです。あまり母乳を飲んでいなかった様子でした。

乳首に吸い付くミコ

現在23歳、より高齢になったミュウから母乳が出るようになるとは思えません。場合によっては人工哺育に切り替えることも視野に入れていましたが、誕生2日目にミコがミュウの乳首に吸い付いているのを確認しました。しかし、よく観察すると喉があまり動いておらず、ちゅぱちゅぱと吸う音が大きいことに気づきました。液体を吸えておらず空気が入っている可能性が高い…。

吸われる刺激によって母乳が作られていくのでしばらく様子を見ることにしました。



4日目から、ミュウは魚を食べるために、出産した洞穴から プールに出てくるようになりました。その際にミコの体重測定を行うと、7.05kg。この時期としてはまずまずの体重だったのでこれを基準にして経過をみることにしました。しかし、5日目は6.9kg、6日目は6.75kgと徐々に減ってきたため、人工哺育に切り替えることにしました。

今がチャンス！と
体重測定



ミルクの味に慣らすために、はじめはツリンヅで少量



ミコは切り替えた2日目には人工乳首に慣れ、哺乳瓶からミルクを飲んでくれるようになりました。1週間後には体重が7kgまで戻り、順調に成長していきました。

衝撃の！一面母乳！

一方母親のミュウはというと、ミコがいなくなり1週間経っても出産・育児をしていた洞穴に居座りミコを探するような行動が見られていました。

さすがに掃除をしなければと思いミュウがいなくなった際に洞穴に入ったところ衝撃的な光景が！なんと地面一帯に母乳が出た跡があったのです！



お互い覚えていたようです

これはミコに飲ませないともつたいない！とミコをミュウの元へ返すことにしました。まずは格子越しで顔合わせをしてお互いが覚えているかを確認することにしました。



人工哺育に切り替えて12日後の6月2日の朝、ミコをミュウの元へ返しました。2頭は30分程興奮したように大きな声で鳴いた後に、巣穴である洞穴に入って授乳をしていました。母乳が出ているのを確認できてはいますが、人工哺育時に与えていたミルクを継続して与えることにしました。その日のミルクの時間は、ミュウがミコを守る気持ちが強いのか、うまくミルクを与えることができませんでしたが、翌日からはミュウが魚を食べにプールに出てきた間に、ミコの体重測定を行い、ミルクを与えることができるようになりました。

警戒するミュウ。
このときは、ミコを引き込んでしまいました

育児はミュウ担当、ミルクは飼育員担当。このように分業して育てていくことを「介添え哺育」といいます。

介添え哺育は母親の協力が不可欠です。ミコを返した初日は警戒していたミュウでしたが、数日経つとミコに悪いことをしているわけではないと理解してくれたのか、こちらがミコに近づいてもあまり警戒しなくなりました。

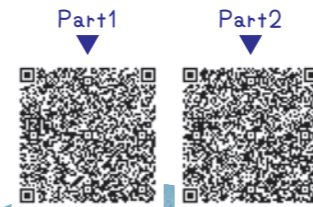


ミコはミルクを完全にこちらで与えるようになってからぐんぐんと成長し、ミュウの元に戻って2週間程でプールを泳げるようになっていました。人工哺育をしていたらこんなに早く泳げるようになっていなかったと思います。ミュウの育児が上手なのだ、と感じました。

ミコの体重は22.2kgまで成長しました。離乳のために魚を食べる練習も終わり、順調に成長していますので、今後も温かく見守ってください！今回のお話は、平川動物公園公式ホームページ「スタッフブログ」で「アシカの赤ちゃんミコ」として詳しく紹介しています。こちらぜひご覧ください。

2月末現在

スタッフブログはこちら



待望のInstagram開設!! & ホームページがリニューアル

前号の開園50周年記念号ではご紹介しきれませんでした。2022年10月1日にInstagramを開設、そして開園記念日の10月14日にはホームページをリニューアルしました。もうご覧いただけましたか?? Instagram投稿の様子とホームページの楽しみ方をご紹介します。

SNSの利用者数やアプリ間の連携などを考慮し、これまでTwitter、Facebook、そしてYouTubeを使用していましたが、開園50周年を機に開設することになりました。対象世代を拡げ、より多くの方々に動物のことや動物園の取り組みを知っていただくことを目的としています。

Instagramといえば、言わずと知れた「インスタ映え」。開設前は、「毎日インスタ映えする写真を撮影することができるのか?」など心配もしましたが、現在は毎朝の「今日のアフリカ園」を中心に1日1~3回投稿しています。5カ月経ち、そろそろフォロワーの皆さんには「今日はどんな風景かな?」と気に掛けてもらえるようになってきたでしょうか? 他の動物たちの様子やイベント情報も同時に投稿していますので、ぜひご覧ください。動物たちの魅力的な姿を通して、様々な情報を発信していきます。



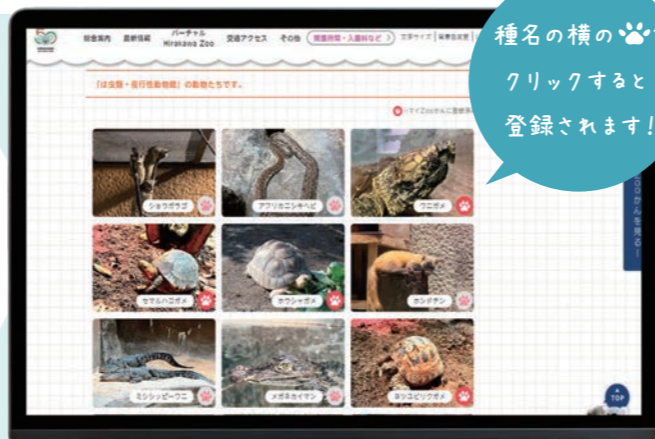
マタコミツオビ
アルマジロの
得意な穴掘りエピソード
(スマホバージョン)



従来のホームページは2011年にリニューアルされ、10年以上に渡り動物園のリニューアル情報や、スタッフが日頃の業務についてわかりやすくお伝えする「スタッフブログ」をアップしてきました。今回、スマートフォンやタブレット端末での閲覧に対応した内容や、利用者の方々が必要な情報にすぐにとどり着くことができるような情報分類等を中心にリニューアルを行うと同時に、動物情報やブログも、より見やすくなりました。ページのおすすめの一つは「HIRAKAWA ZOOかん」です。現在飼育している動物たちについて、注目ポイントや観察した内容を担当飼育員目線で書き下ろしました。複数の画像がスライドショー表示されるようになり、画像が大きく見やすくなりましたので、注目ポイントと合わせて見てください。そして、気になった動物は「マイZooかん」として別に保存しておくことができます。

- ・動物園で見てみたい動物を登録
- ・実際に動物園で見た動物を登録
- ・カメの仲間を登録

などなど、使い方は皆さん次第! ぜひご活用ください。



乳幼児向け/バリアフリー情報も充実しています。ベビシート設置場所やバリアフリートイレ、小児用トイレの場所も画像と共に掲載していますので、事前にご確認いただくと園内を計画的にご覧いただくことができると思います。

見ているだけでつい行った気分になってしまうホームページになりましたが(もちろんそれもOK!), ご来園の際の参考にぜひご活用ください。

ZOO 館 どうぶつ



チンパンジー



チンパンジーは動物の中でも一番ヒトに近いと言われていて、エサをとるために道具を使うこともあるよ!
チンパンジー展示場には人工のアリ塚が設置されているから、中にハチミツを溶かした水をいれておくと枝や葉っぱを穴に差し込んで器用になめとるんだ!
こどもたちは、おとなのやり方を横で見ながら道具の使い方を学んでいくんだよ!



私の必須アイテム

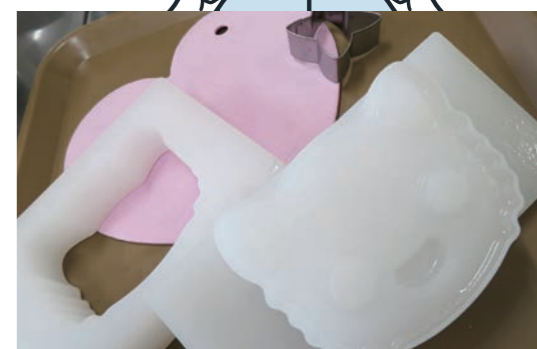
総務課収益係食堂担当 松尾太郎の必須アイテムは
ホワイトタイガー抜き型



私たち収益係食堂スタッフは、動物公園内食堂の営業(調理・接客等)を担当しています。食堂にはたくさんのメニューがあり、それに応じて様々な道具を使いますが、今回ご紹介するのは「ホワイトタイガー抜き型」です。

「おこさまカレー(ホワイトタイガー)」は、子供達に大人気のメニューです。この抜き型を使うことにより、ホワイトタイガーの顔の形のライスを素早く、そしてきれいに盛ることができ、多くの注文が入ってもできるだけお待たせせずに提供することができます。

ちなみにこの抜き型は特注!
皆さんもぜひ一度召し上がってみてくださいね。



ライスを詰めて...



きれいに盛ることができました!